





Eagle Eye Cloud VMS と他のクラウド監視システムとの違い

| | Eagle Eye Cloud VMS | 他のクラウドシステム |
|-----------|---|--|
| データ損失リスク | <p>ネットワークが切断した場合にも 映像損失リスクを低減</p> <p>クラウドにアップロード完了するまではローカルにデータを保持する仕組み</p> | <p>ネットワーク断断により 録画データが失われるリスクあり</p> <p>※カメラ内のSDカードにバッファする仕組みでは、各カメラにSDカードが必要。またSDカードは書き込み回数に上限があり、頻繁なメンテナンスが必要になる。</p> |
| 柔軟な帯域管理 | <p>カメラからクラウドにアップロードする データ量を柔軟に制御できる</p> <p>帯域が狭い場合、もしくは、カメラが追加される場合にも、なるべく与えられた環境下でシステムを運用できるよう管理できる</p> | <p>カメラごとに一定の帯域が必要となり データ量は細かく制御できない</p> <p>拠点でのカメラ台数が追加された場合、余分にインターネットコストがかかる</p> |
| 接続可能カメラ機種 | <p>対応機種 3000以上</p>  <ul style="list-style-type: none"> 様々なメーカーのIPカメラ、アナログカメラに広く対応 既設カメラをそのまま使用して、カメラ代や施工費を節減可能 対応機種は現在（2020年3月時点）3000機種を超えており、日々拡充している | <p>機種が限定されている</p>  |
| 映像解析機能 | <p>標準機能として解析機能を使用できる</p>  <ul style="list-style-type: none"> 標準機能として、カウント機能をはじめとした解析機能を使用できる カメラの機種に関係なく、閲覧できる映像すべてに対して、設定一つでお手軽に解析を適応できる | <p>標準機能としては解析機能を使用できない</p> <p>×</p> |
| オープンAPI | <p>APIが開示されている</p>  <ul style="list-style-type: none"> 自由に外部アプリケーションとの連携を開発できる | <p>APIが開示されていない</p> <p>×</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発を進めるに当たり契約が必要となる |